

津久井やまゆり園事件発生から1年を迎えるにあたって

神奈川県津久井やまゆり園での元職員による利用者殺傷事件発生から1年がたちました。事件発生時に私たちが受けた大きな衝撃や不安は今も忘れることができません。

また、その後、全国で、犯人に同調するような意見や投書などが少なからずみられたことは、差別的な偏見や価値観が、いまだに人々の心の奥底に根深く存在するという事実を、あらためて私たちに突きつけるものでした。

しかしながら、この一年間で私たちが学んだことは、知的障害児者の権利を守るための、これまでの親の会活動は間違っていなかったという確信と、そのような偏見や差別に負けてはいけない、これからはしっかりと障害児者とその家族を支えていかなければならないという新たな決意です。

現在、東京都は、来年10月を目途に、障害差別解消に係る東京都の条例制定に向けて準備を進めています。私たちは、今後も、人と人の心をつなぐ理解啓発活動とともに、必要な施策制度の整備を関係行政に働きかけ、障害のある人もない人も安心して暮らすことができる共生社会の実現に取り組んで参ります。

最後に、この事件で犠牲になった方たちにあらためて心から哀悼の意を表するとともに、関係する家族の方々が少しでもはやく深い心の痛手から立ち直ることを願ってやみません。

平成29年7月26日

社会福祉法人東京都知的障害者育成会 理事長
東京都手をつなぐ親の会 会長 佐々木桃子